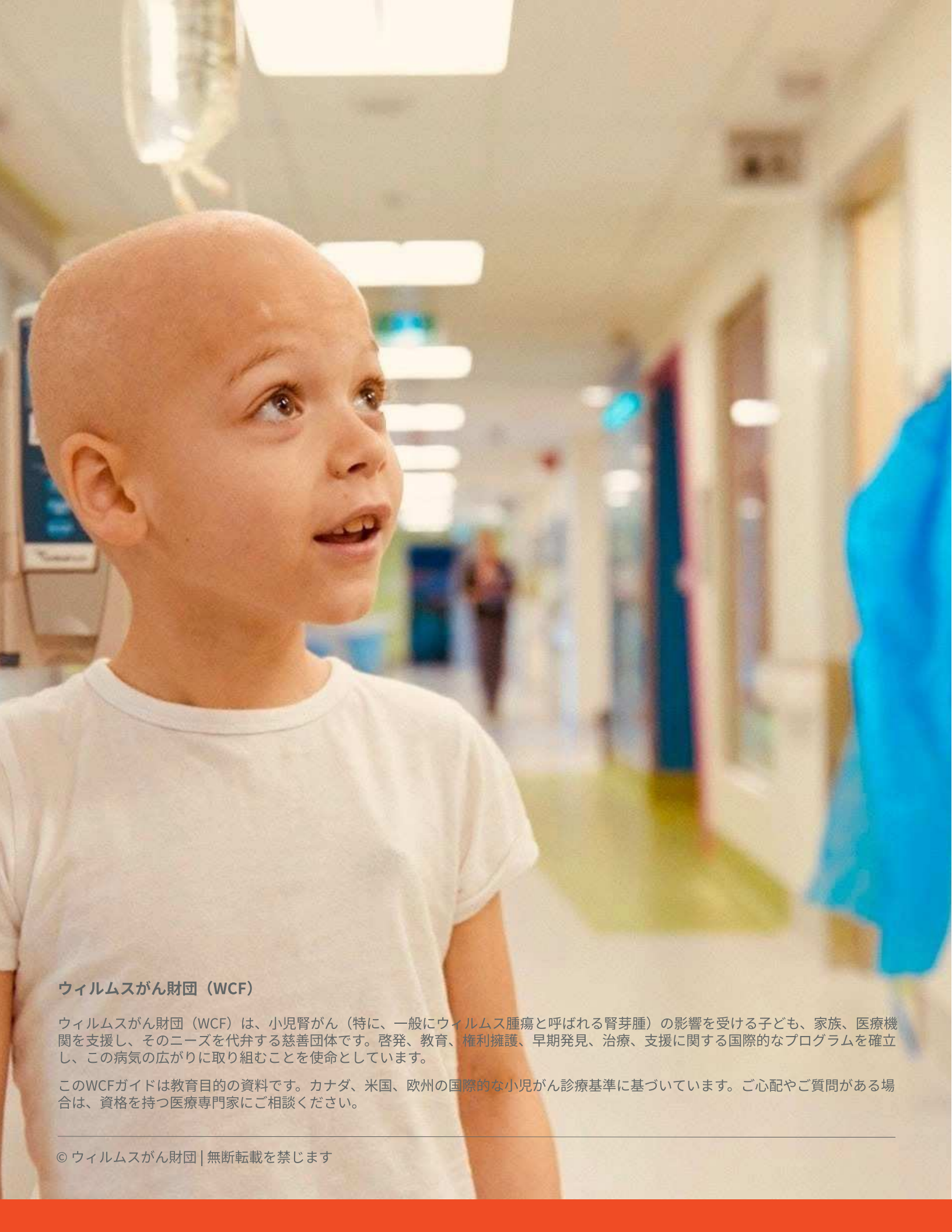
ウィルムスがん財団

ウィルムス腫瘍

早期診断と長期的な見通し

保護者・介護者のためのわかりやすいガイド





ウィルムスがん財団（WCF）

ウィルムスがん財団（WCF）は、小児腎がん（特に、一般にウィルムス腫瘍と呼ばれる腎芽腫）の影響を受ける子ども、家族、医療機関を支援し、そのニーズを代弁する慈善団体です。啓発、教育、権利擁護、早期発見、治療、支援に関する国際的なプログラムを確立し、この病気の広がりに取り組むことを使命としています。

このWCFガイドは教育目的の資料です。カナダ、米国、欧州の国際的な小児がん診療基準に基づいています。ご心配やご質問がある場合は、資格を持つ医療専門家にご相談ください。

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます

目次

早期診断と長期的な見通し（ウィルムス腫瘍）　資料シリーズ2.2a

保護者・介護者のためのわかりやすいガイド

1 - 保護者・介護者のための1ページ要約

1.1 - ウィルムス腫瘍とは 2

1.2 - 早期診断が重要な理由 2

1.3 - 最も重要な警告サイン 2

1.4 - その他の注意すべき徴候 2

1.5 - 徴候に気づいたら 2

1.6 - 診断方法 2

1.7 - 安全上の重要事項 2

1.8 - 長期的な見通し 2

1.9 - 保護者・介護者への要点 2

2 - スクリーニング

2.1 - 共通のガイドライン 3

2.2 - 追加の検診が必要な子ども 3

2.3 - 推奨される検診（専門家の標準） 3

3 - 診断の手順

3.1 - ステップ1〜5 4

4 - ウィルムス腫瘍の発見まで

4.1 - 流れを示す図 5

5 - 安全上の重要事項

5.1 - 診断時に生検を行わないこと 6

5.2 - その理由 6

5.3 - 治療後の生活 6

5.4 - 長期的なケア 6

5.5 - 再発リスクを理解する 6

5.6 - 保護者・介護者への要点 6

5.7 - 再発リスクを下げる要因 6

5.8 - ご家族への安心につながる情報 6

6 - 主治医に尋ねたいこと

6.1 - 質問して子どものために行動する 7

6.2 - 保護者・介護者が覚えておくこと 7

1 - 保護者・介護者のための1ページ要約

1.1 - ウィルムス腫瘍とは

- 主に5歳未満の幼い子どもに発症する腎臓のがんです。
- 小児がん全体では4番目に多く、小児の腎がんでは最も多い病気です。



1.2 - 早期診断が重要な理由

- 初めは元気に見える子どもも多いため、初期の徴候を知り、速やかに行動することが重要です。
- 早期に見つかれば治療は非常に有効です。生存率は90%を超え、多くの子どもが健康で充実した生活を送ります。

1.3 - 最も重要な警告サイン

- おなかの硬く、痛みのないしこりや腫れ。

1.4 - その他の注意すべき徴候

- 血尿。
- 高血圧、頭痛、疲労。
- 腹痛、発熱、原因のわからないだるさ。



1.5 - 徴候に気づいたら

- 直ちに医療機関を受診してください。
- 緊急の画像検査（超音波検査）を相談してください。
- 改善するかどうか様子を見るのは避けてください。

1.6 - 診断方法

- 腹部の超音波検査。
- 腫瘍を詳しく調べるCTまたはMRI。
- 肺の状態を確認する胸部画像検査。
- 小児がん専門チームへの紹介。

1.7 - 安全上の重要事項

生検によってリスクが高まる可能性があるため、通常、診断時にはウィルムス腫瘍の生検を行いません。

1.8 - 長期的な見通し

- 多くの子どもが長期生存を達成します。
- 再発リスクは最初の2〜3年間が最も高くなります。
- 5年後には再発リスクは非常に低くなります。
- 経過観察では腎臓の健康、成長、全身の健康を重視します。

1.9 - 保護者・介護者への要点

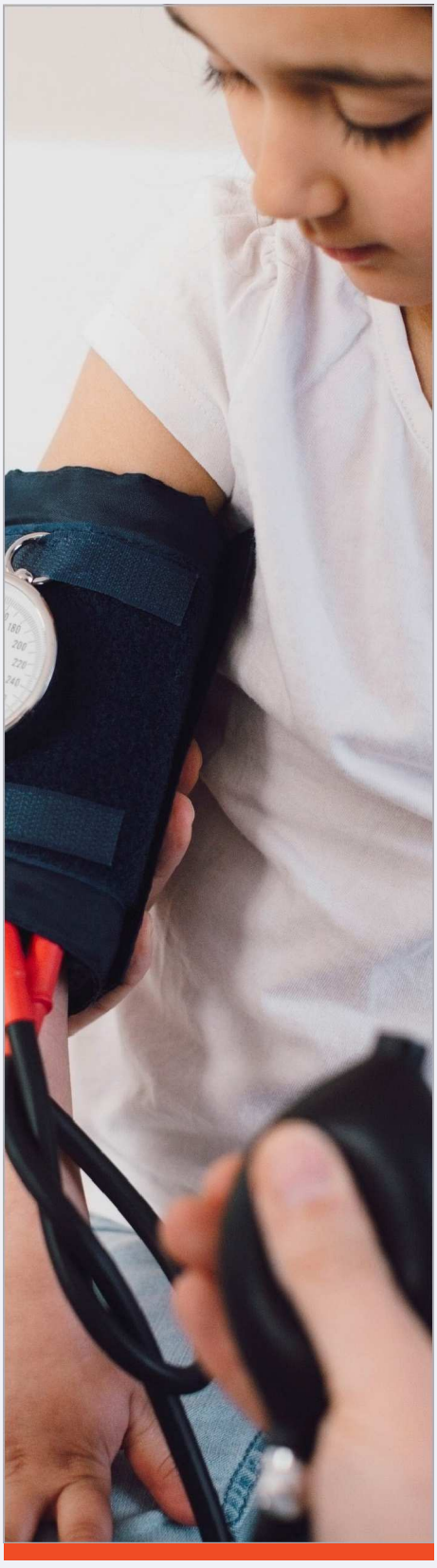
痛みのないおなかのしこりも正常ではありません。速やかな行動がより良い結果につながります。

2 - スクリーニング

2.1 - 共通のガイドライン

世界中の医師はCOGやSIOPによる共通の専門家ガイドラインに従っています。「改善するか様子を見る」のではなく、速やかな認識と画像検査を重視します。

早期に発見できれば、通常は治療の負担が少なくなり、長期的な健康状態も良好になります。



2.2 - 追加の検診が必要な子ども

一部の子どもはウィルムス腫瘍のリスクが高く、元気でも定期的な検診が必要です。次のような場合が該当します。

- ベックウィズ・ヴィーデマン症候群。
- WAGR症候群。
- デニス・ドラッシュ症候群、片側過形成。
- WT1遺伝子の変化が確認されている場合。
- ウィルムス腫瘍の強い家族歴。

検診により腫瘍が小さいうちに見つかることが多く、治療が容易になります。

2.3 - 推奨される検診（専門家の標準）

乳児期から7〜8歳まで、3か月ごとの腎臓の超音波検査。

3 - 診断の手順

ステップ1

診察
- 医師が腹部を触って調べます。
- やさしく診察します（繰り返し強く押しません）。

ステップ2

超音波検査（最初の検査）
- 安全で痛みがなく、放射線を使用しません。
- しこりが腎臓に由来するか確認します。
- 両方の腎臓を調べます。



ステップ3

CTまたはMRI
- 腫瘍の大きさと広がりを確認します。
- 治療計画に役立ちます。
- 被ばくを減らすためにMRIを使う場合があります。

ステップ4

胸部画像検査
- 胸部CTまたは胸部X線検査を行います。
- 肺はウィルムス腫瘍が最も転移しやすい部位です。



ステップ5

血液検査と尿検査
- 腎機能を確認します。
- 貧血や血尿の有無を調べます。
- 安全に治療するための基準値を確認します。

4 - ウィルムス腫瘍の発見まで

4.1 - 流れを示す図



5 - 安全上の重要事項

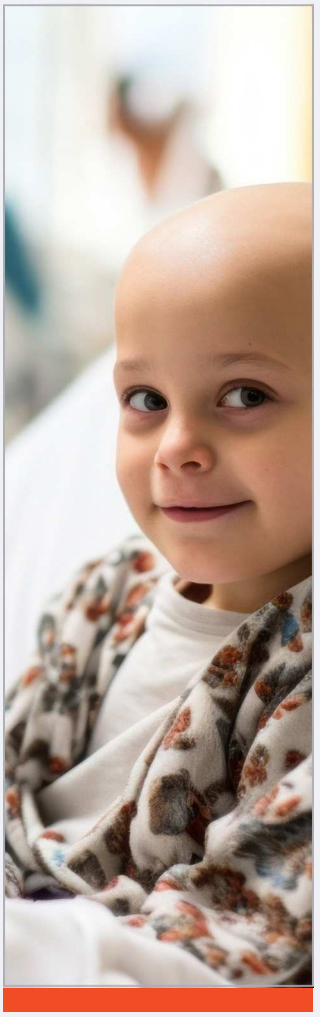
5.1 - 診断時に生検を行わないこと

通常、医師が直ちに生検を行わないと知り、驚く保護者も少なくありません。

5.2 - その理由

- 生検により腫瘍細胞がこぼれ出る可能性があります。
- これにより病期が変わることがあります。
- 通常、画像検査で診断に十分な情報が得られます。
- 子どもの安全を高めるため、世界中で用いられる方針です。





5.3 - 治療後の生活と長期的なケア

治療を受けた子どもたちは長期生存を達成します。

5.4 - 長期経過観察で重視すること

- 腎臓の健康（特に片方の腎臓を摘出した場合）。
- 血圧。
- 心臓・肺の健康（特定の薬剤や放射線を使用した場合）。
- 成長と発達。

注：通常、何年にもわたる定期的な経過観察が必要です。

5.5 - 再発を理解する

再発とは、がんが再び現れることです。

5.6 - 保護者・介護者への要点

- 治療後の最初の2〜3年間が最もリスクの高い時期です。
- 5年後には再発リスクが大きく下がります。
- この期間も慎重な経過観察を続けます。

5.7 - 再発リスクを下げる要因

- 早期の診断と腫瘍の完全な摘出。
- 治療計画と経過観察の予定を守ること。

5.8 - ご家族への安心につながる情報

- 多くの子どもが生存し、健やかに成長します。
- 早期診断は治療の負担を軽減します。
- 長期経過観察は再発を予想して行うものではなく、健康を守るための積極的・予防的なケアです。



6 - 主治医に尋ねたいこと

6.1 - 質問して子どものために行動する

- 腫瘍の病期は何ですか。
- どのような治療計画を勧めますか。その理由は何ですか。
- 化学療法や放射線療法は必要ですか。
- 治療は長期的な腎機能にどう影響しますか。
- 今、どのような副作用に注意すべきですか。
- 診察や画像検査はどのくらいの頻度で行いますか。
- 自宅で注意すべき再発の徴候は何ですか。
- 次の予約までに心配なことがあれば、誰に連絡すべきですか。

6.2 - 保護者・介護者が覚えておくこと

- ご自身の直感を大切にしてください。
- 痛みのないおなかのしこりも、様子を見るべきではありません。
- 早い行動が最善の結果につながります。



© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます



ウィルムスがん財団

電話：+1 (778) 514 5000
メール：info@WilmsFoundation.org
ウェブ：www.WilmsFoundation.org
住所：Suite 2147, 712 H Street NE, Washington DC, USA, 20002

WILMS CANCER FOUNDATION、WCF、および「DEFEATING CHILDHOOD KIDNEY CANCER」「THE DISEASE YOU'VE NEVER HEARD OF」は、当財団の国際的な商標であり、著作権により保護されています。文書の内容とデザイン：ウィルムスがん財団。© 無断転載を禁じます。

著作権法により、当財団の事前の書面による同意なしに、本資料の全部または一部をコピー、複写、複製、翻訳することはできません。

米国：501(c)(3)認定非課税団体 | EIN: 98-1563988
カナダ：登録慈善団体 756261939BC0001

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます

© 世界保健機関（WHO）。ウィルムスがん財団（WCF）との協力のもと、許可を得て使用しています。CureAllはWHOの「小児がんに関する世界的イニシアチブ（GICC）」の一環です。WHOは特定の団体、製品、サービスを推奨するものではありません。

© ウィルムスがん財団 | 無断転載を禁じます